

2022 年度 環境過敏症分科会活動計画書(理事会提出)

北條祥子, 水越厚史, 黒岩義之

【分科会設立趣旨・目的】

環境過敏症とは通常では問題にならないような身の回りの微量な化学物質（室内空気汚染物質・受動喫煙・医薬品・殺虫剤・芳香剤・柔軟剤等）、生物的要因（カビ, ダニ, 花粉, ウイルス等）、物理的要因（音, 光, 地震, 低気圧, パソコン・スマホ・MRI 装置等からの電磁場など）により、多器官に多彩な症状が現れる健康障害の総称で、代表例はシックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症である。アレルギー疾患と密接に関係しているが、種々の要因の複合影響と考えられるため、その病態は科学的に未解明なことが多い。本分科会の目的は国内外の研究者と共同研究・情報交換をしながら、科学的に未解明な環境過敏症の病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立をめざすことである。

【2022 年度年度活動計画】

- 1) メーリングリストを通して、環境過敏症に関する基礎的な知識・情報・文献および現状に関する調査結果などの情報交換・共有を行い、メンバーが分担して整理する。
- 2) 日本臨床環境医学会学術集会では、各メンバーの日ごろの研究成果を発表する。また、分科会を開催し、情報交換・情報共有する。
- 3) 定期的に勉強会（対面/オンライン）を開催する（2回開催予定）。講師代として2人（2万円を計上する）。
- 4) 幹事会はメールやオンラインで定期的に行う。
- 5) 社会貢献活動として、医療関係者（1回）や一般市民向け（一回）のオンライン公開講座を開催予定。講師謝金, 資料作成アルバイト代として3万円を計上する。
- 6) 従来通り、「室内環境学会・環境過敏症分科会」や「生活環境と健康研究会」とは連携をとりながら、双方の学会の研究がより充実するような方向で協力して活動する。
- 7) 台湾建築医学学会との、情報交換・情報共有を発展させる。

【分科会メンバー（五十音順 ◎代表, ○副代表, *2022 年度幹事）】

1) 医療分野：相澤好治（北里大学名誉教授）、青木真一（秋田協立歯科医院）、*上田 厚（NPO 法人アジアヘルスプロモーションネットワークセンター）、奥村二郎（近畿大学医学部）、内山巖雄（京都大学名誉教授）、大澤 稔（東北大学病院）、小倉英郎（高幡会大西病院）、角田和彦（かくたこども&アレルギークリニック）、○黒岩義之（帝京大学医学部付属溝口病院脳神経内科脳卒中センター）、近藤哲哉（関西医療大学）、坂部 貢（千葉大学予防医学センター）、*鈴木高弘（横浜薬科大学）、鈴木珠水（独協医科大学看護学部）、*平久美子（東京女子医科大学附属医療センター）、高塚俊治（岡山駅前歯科診療所）、高野裕久（京都大学大学院）、出村守（札幌でむら小児クリニック）、土器屋美貴子（佐賀大学医学部）、*中里直美（元国際医療福祉大学熱海病院）、西影京子（よこはま にしかげ小児科・アレルギー科クリニック）、* 乳井美和子（そよ風クリニック）、松井孝子（秋田大学医学部）、宮田幹夫（そよ風クリニック）、◎北條祥子（東北大学大学院歯学研究科）、○水越厚史（近畿大学医学部）、山國 徹（東北大学薬学部）、山中隆夫（国立病院機構相模原病院）、吉田貴彦（旭川医科大学）、渡井健太郎（湘南鎌倉総合病院）

2) 生物・化学・物理・工学・社会科学分野：池田耕一（元日本大学）、岩崎由美子（総合地球環境学研究所）、上田昌文（市民科学研究室）、浦野真也（有環境資源システム総合研究所）、木村一黒田純子（環境脳神経情報センター）、近藤加代子（九州大学）、東門田誠一（尚絅学院大学）、*徳村雅弘（静岡県立大学）、羽根邦夫（羽根産業技術株式会社）、林基哉（北海道大学）、*黄 琳琳（台湾正修科技大学）、星野陽子（足利市立北郷小学校）、宮田英威（東北大学大学院理学研究科物理）、柳沢幸雄（東京大学名誉教授）、*柳田徹郎（東京大学大学院工学研究科）、吉野 博（東北大学名誉教授）